

目 的

県内のサケ科魚類に多く発生する細菌性疾病には、せつそう病・ビブリオ病・冷水病がある。これらの疾病の治療には、水産用医薬品が使用されている。しかしながら、医薬品の使用により薬剤耐性株が出現する可能性があり、的確な魚病指導を行うためには細菌の薬剤感受性について把握しておくことが必要である。そこで、本試験では、魚病検査で分離された菌株の薬剤感受性を調査し、魚病指導にかかるデータを蓄積した。

材料及び方法

**病原体の分離** 細菌はトリプトソーヤ寒天培地（ニッスイ）、改変サイトファーガ寒天培地を使用し、15℃または 20℃にて分離培養した。

**薬剤感受性試験** せつそう病原菌 *Aeromonas salmonicida*、ビブリオ病原菌 *Vibrio anguillarum*、冷水病原菌 *Flavobacterium psychrophilum* について、ディスク法により検査した。

結 果

分離された各原因菌の薬剤感受性試験結果を表 1 に示した。例年のとおりスルファモノメトキシンに対してすべての菌に耐性菌が出現し、投薬の効果が期待できなくなっている。せつそう病原菌ではオキシリン酸耐性菌が、冷水病原菌ではスルフィソゾール耐性菌がそれぞれ 1 菌株ずつ出現したので、投薬にあたり感受性の有無について注意を払う必要があると考えられる。冷水病原菌のスルフィソゾール耐性菌の出現については、ニジマスへの冷水病治療薬として承認され、本薬剤が多用された結果による可能性も考えられる。薬剤のみに依存した魚病対策は、耐性菌出現により投与効果が期待できなくなることもあるため、今後は防疫や予防対策を強化していく必要がある。

表 1 各原因菌の薬剤感受性試験結果

	+++	++	+	-
<b>(せつそう病原菌)</b>				
塩酸オキシテトラサイクリン	2			
オキシリン酸		1		1
フロルフェニコール	2			
スルファモノメトキシン		1		1
スルフィソゾール	2			
<b>(ビブリオ病原菌)</b>				
塩酸オキシテトラサイクリン	1			
オキシリン酸	1			
フロルフェニコール	1			
スルファモノメトキシン				1
スルフィソゾール	1			
<b>(冷水病原菌)</b>				
塩酸オキシテトラサイクリン	4			
オキシリン酸	4			
フロルフェニコール	4			
スルファモノメトキシン				4
スルフィソゾール	3			1

(水産技術部)